

## SGH講演会週間が開催されました

6月18日(火)～21日(金)、SGH講演会週間が開催され、高校1年生と中学3年生が講演会やフィールドワーク学習会に参加しました。高校1年生は現在課題研究の計画書を作成中であり、意見交換会では、専門家の皆様から多くの貴重な助言をいただくことができました。

日付	依頼先	講師	対象生徒	参加人数
		講演・指導内容		
フィールドワーク学習会				
18(火)	長崎県立大 国際社会学部	小原 篤次 准教授 中国人留学生・日本人学生	平和班	高校生47名 中学生10名
		社会調査の方法や学術的意義、調査倫理など (アンケート調査)		
SGH講演会・意見交換会				
19(水)	長崎大学 熱帯医学研究所	日本人院生と留学生	医療班	高校生40名 中学生16名
		感染症、日本やアジアの現状など		
20(木)	長崎大学 核兵器廃絶研究センター(RECNA)	中村 桂子 准教授	平和班	高校生46名 中学生17名
		ナガサキから平和に関するグローバル課題について考える		
20(木)	長崎大学 熱帯医学研究所	山本 太郎 教授	医療班	高校生40名 中学生5名
		ナガサキからグローバルヘルスを考える		
21(金)	長崎大学 環境科学部	利部 慎 助教	水班	高校生34名 中学生2名
		ナガサキ・水資源に関するグローバルな課題について		

### 【生徒の感想(抜粋)】

○18日(火) 国際社会学部 小原先生

「初めて実際にアンケート調査をしてみて良かったことは、今回は相手や事情を知っていてすぐに調査ができたけど、全く知らない人にしたときにどうなるのかを考える機会ができたことです。アンケート調査も自分の知りたいことを直接聞くのではなく、聞いて不快に感じる人がいないかなどをよく考えて質問を作ることが大切なんだと学びました。SGHで活かしていきたいです。」

「実際のアンケートを見て、聞きやすいことから質問を始めることや、プライバシーなどのことについて書くことなど、自分たちがアンケートを作成しようとしたときに参考にすべき具体的なことをたくさん教えていただいたので、しっかりと活かしていきたい。」



○20日(木) RECNA 中村先生

「今回は核兵器のことについてたくさんのことを学んだ。はじめに、現在地球上に存在する核弾頭の数が約13,800発と聞いたときは案外少ないと感じたが、最後にビービー弾を使って体感したときにはその数の多さに気付いた。音が大きくとても迫力があつた。今日学んだことを、SGHの活動につなげていきたい。」

「今までの小学校や中学校の中で、何度も『原爆は恐ろしい』『原爆はだめ』ということをおぼわってきました。ですが、今回の講演を聞いて、核の事実や現状を知った後どう自分の考えをもつかが大事であるということや、国際的な問題である核問題に世界の人々がどう協力し、話し合いながら向かっていくかがこれからの社会において重要なんだということをおぼことができました。」



○20日(木) 熱研 山本先生

「医療は病院で働いているイメージが強かったけれど、山本先生のように菌自体を研究して医療に貢献する形もあることを知った。また、感染症などをいろんな視点で見ることによって、近代医学の発展につながるものが分かった。自分たちの研究でもいろんな観点から物事を考えていきたい。」

「今までの医学は悪いものを排除するだけだったが、最近の医学は体内・体外にかかわらず、生物の多様性を守ることが健康を守ることになっている。私たちの目に見えている世界よりも、目に見えない微小の世界の方が生物種が多いということ。自分たちが研究する世界だけでなく、もっと広い世界を知りたい。」



○21日(金) 環境科学部 利部先生

「今日の講演会の中で心に残ったことの1つは、地下水の減少についてだ。地下水の減少は地盤沈下などに影響しているということにも驚いた。地盤沈下は一度起きてしまうと、元に戻らないということを知り大変だと感じた。ただ、日本の地下水は循環しやすいので、地下水の量自体は元に戻せるということも学んだ。」

「僕たちの班はまだ何について調べるか具体的に決まっていなかったけど、今回の話を聞いて、今まで思いつ

かなかった水資源についての考え方や着眼点を得る良い機会となりました。特に、地下水の枯渇問題は先進国でも途上国でも起こりうる問題なので、テーマにしてみたいと感じました。」

